

初心者のための気軽な
能入門講座

2013年6月3日(月)～10月7日(月)

昼の部(お抹茶とお菓子付) 14:00～15:30

夜の部(軽食とお茶付) 19:30～21:00

※各回とも30分前より受付開始 **受講料1,000円**

まっちゃまちサロン

※能の体験講座で実際の能の上演はございませんこと、ご了承ください。

知れば知るほど おもしろくなる能の魅力

ユネスコから第1回世界無形遺産の指定を受けた能楽。初めての方は「難しい」と感じられる事も少なくありません。

初心者の方でも気軽に楽しんで頂ける「能」の入門講座が「まっちゃまちサロン」です。

国登録文化財の指定を受けた「山本能楽堂」を舞台に毎回異なる様々な能面や装束をご覧頂きます。

重要無形文化財総合指定保持者の山本章弘が、わかりやすく、楽しく「能」の世界にご案内します。

ユーモアを交えた楽しいお話に笑いが絶えず、リラックスしてお楽しみ頂ける、あっというまの1時間半です。

毎回違う能面や、美しい能装束もご覧頂けます。

1回ごとに完結する内容ですので、どなた様もお好きな回から、あるいはご都合のよい回のみご参加頂けます。

舞台上がって頂いたり、声を出したり、色々な能の体験もできます。

第1回昼の部には「抹茶と和菓子」、第2回夜の部には「軽食とお茶」が付いており、

どうぞお召し上がりになりながら、リラックスしてお気軽にご参加下さい。

まっちゃまちサロンの楽しみ方

その1 第一線で活躍中のプロが講師!

第一線の舞台や海外でも活躍中の山本章弘が、毎回異なった曲目をテーマに、時代背景やあらすじをわかりやすくおもしろく解説。むつかしそうな伝統芸能「能」がとても身近なものになってしまいます。



その2 能面や小道具、装束の解説もある!

「能面」や「小道具」「装束」にも深い意味がある。身近に見ながら、今まで気付きもなかったことの意味を知れば知るほどに興味が深まってしまうから不思議。



その3 舞台上がって体験もできる!

謡(登場人物の台詞と地謡とよばれるコーラス部分)の体験があったり、装束の着付けなど、楽しい初体験が待っています。



その4 昼の部はお抹茶とお菓子、夜の部は軽食とお茶でホッと一息。



昼の部には「抹茶と和菓子」、夜の部には「軽食とお茶」をご用意しています。お気軽に召し上がりながら「能」の世界をお楽しみください。

※お昼の部に50名様以上ご参加の場合は、お抹茶とお菓子を変更させて頂く場合がございます。

※ お出しさせて頂いているお茶は「水と生きる」SUNTORYの御協賛です



■主催/公益財団法人 **山本能楽堂**



国登録有形文化財
山本能楽堂
公式ホームページ
<http://www.noh-theater.com/>

初心者のための気軽な **能入門講座**

まっちゃまちサロン

平成25年

6月3日(月)~10月7日(月) 講座予定

昼の部(お抹茶とお菓子付) 14:00~15:30

夜の部(軽食とお茶付) 19:30~21:00

※各回とも30分前より受付開始 **受講料1,000円**

※「まっちゃまちサロン」は、能の体験講座で実際の能の上演はありませんのでご了承下さい。

6月3日(月) 「桜川」 さくらがわ

互いを想う親子の強い愛情

九州の日向に住む桜子が商人に自分の身を売り、そのお金と手紙を母へ渡すようにと商人に託す。手紙を受け取った母は嘆き悲しみ、家を迷い出る。それから三年。桜子は遠く常陸国(今の茨城県)磯辺寺の住職の弟子となっていた。春の花盛り、住職は桜子とともに、近隣の花の名所、桜川に見花に出かける。折しも桜川のほとりには、長い旅を経た桜子の母がたどり着いていた。狂女となった母は、川面に散る桜の花びらを網で掬い、狂う有様を見せていた。住職がわけを聞くと、母は別れた子、桜子に縁のある花を粗末に出来ないと言ふ。そして落花に誘われるように、桜子への想いを募らせて狂乱の極みとなる。やがて桜子は物狂が母であると気づき、二人は再会を果たしたのだった。

7月1日(月) 「天神と能」 てんじんとのか

天神様を題材にした、能の魅力を味わっていただきます。

7月、大阪の最大の行事である天神祭は7月25日を本宮として催されますが、天神様こと菅原道真公は能でもいろいろと取り上げられています。菅原道真が愛した梅と松を主題とした「老松」。特に梅は道真公が陰謀によって流罪となった時、庭に生えていた梅の名残に「東風吹かば匂ひ起こせよ梅の花、主なしとて春を忘るな」と和歌に詠まれたために、後には道真公を慕って、京都から九州太宰府まで飛んだ「飛梅」の伝説が知られています。他には、怒りを持った道真公の亡霊が雷神と化して暴れ回る「雷電」という能もあります。「雷電」は世阿弥作の《菅丞相》という能を短く改作したものであり、道真公の没後千百年祭においては、大阪天満宮において《菅丞相》の復活上演も行われました。

8月4日(日) 「藤戸」 ふじと

昼の部のみ

悪龍となって恨みをはらそうとした漁師の亡霊が…

藤戸の合戦での先陣の功によりその土地を賜った佐々木盛綱は国入りすると、まず訴訟のある者は申し出るように触れを出した。すると一人の老婆が現れ、我が子を殺された恨みを述べる。盛綱は否定するが、老婆の激しい追求によって告白する。藤戸の合戦の際、盛綱は土地の漁師に渡ることのできる浅瀬を聞き出したが、他の者に漏らされるのを恐れ、その漁師を殺したのだ。老婆は悲しみを新たにし、自分も殺せと詰め寄る。盛綱は非を認め、老婆を自宅まで送らせた。

盛綱は漁師を弔う法要を行い自らも読経すると、漁師の亡霊が現れ、恩賞を賜った盛綱に対して、自分は殺された理不尽を責める。そして殺された時の様子を再現し、悪龍となって恨みを晴らそうと思ったが、意外にも回向を受けて成仏できたと述べる。

9月2日(月) 「翁」 おきな

天下泰平・五穀豊穰・国土安穏を祈る神聖な儀礼曲

「とうとうたりたりら…」という謡から始まる《翁》は、天下泰平・国土安穏を祈祷する神聖な儀礼曲で、千歳・翁・三番叟(さんばそう)の三人の役者が、祝祷の歌舞を順に見せるものです。古くは「翁面神事」などとも呼ばれており、翁の面こそが神体とされています。その面を舞台上で翁大夫がかけ、大夫自身が神となって祝福の舞を行います。

「翁」をつとめる役者は、家族と食事に使う火を別にする「別火(べっか)」という風習があります。そして当日も幕の内側にある鏡の間には「翁飾り」とよばれる祭壇が設けられ、御神酒をいただく儀式があり、そして火打石による切り火が役者と舞台にと向けて行われます。全ては「翁」に向けて行われる「清め」です。

10月7日(月) 「鉄輪」 かなわ

夫に捨てられた女が、恨みのあまり鬼となり…

夫に見捨てられた女が恨みを晴らすために貴船神社へ丑ノ刻詣に参っていると、社人が不思議な神の告げを聞かせる。赤い着物を着て顔に朱を塗り、鉄輪(五徳のこと)を頭にいただき、その三つの脚にロウソクを付けて火を灯せば、生きながら鬼と変じて恨みを果たせるというのだ。それを聞いた女は突然様子が変わり、貴船神社から走り去る。

一方、夫は夢見が悪いので陰陽師の安倍晴明を訪れて祈祷を頼む。晴明が夫と新妻の人形を作って祈祷していると、鬼女の姿となった先妻の生霊が現れる。生霊は人形に向かって恨みを述べ、新妻の髪を手からめて打ち叫びたりした末、夫の命を取ろうと責め寄るが、守護の神々に追われ、呪いの言葉を残して立ち去るのだった。

お問い合わせは

山本能楽堂

〒540-0025 大阪府中央区徳井町 1-3-6

Tel:06-6943-9454 Fax:06-6942-5744

e-mail info@noh-theater.com

山本能楽堂公式ホームページ: <http://www.noh-theater.com/> 山本能楽堂ブログ「能楽堂の一日」(毎日更新!)

※ お出しさせて頂いているお茶は「水と生きる」SUNTORYの御協賛です

